

# 自ら学び自ら考える子供の育成

～教科等を学ぶ価値が実感できる

複式学級における学習指導を通して～



令和3年 10月15日（金）

## 奄美市立宇宿小学校

～リーフレットの見方について～

-  . . . I このような理由で研究を進めました（主題設定の理由）
-  . . . II このように研究を進めてきました（研究の内容）
-  . . . III このような実践をしました（研究の実際）
-  . . . IV このようなことが分かってきました（研究のまとめ）

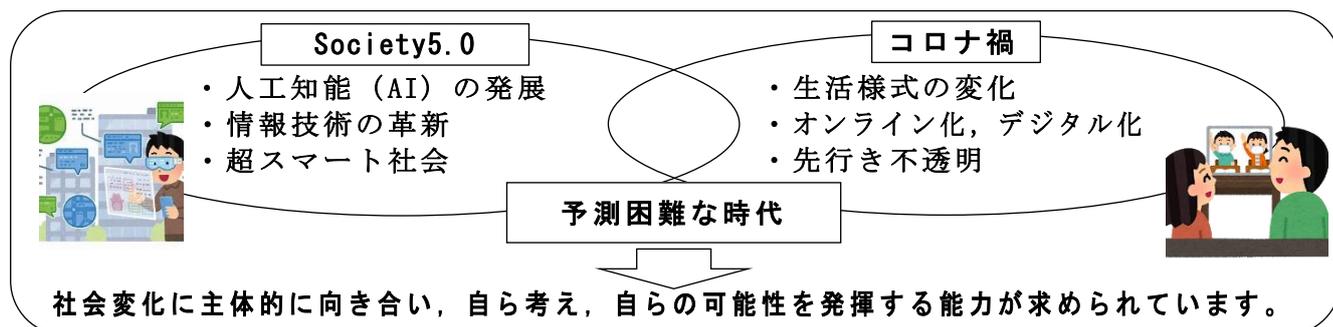


※ 研究の詳細は、本校 web ページの「研究紀要」をご覧ください。



# I このような理由で研究を進めました

## ○ 社会背景から



## ○ 学校の教育目標等から

学校教育目標	心豊かで すすんで学び たくましく生きる力を備えた宇宿っ子の育成
目指す子供像	自ら学び自ら考える子供

子供たちが自ら学びに向かい，主体的に学習に取り組む姿を目指しています。

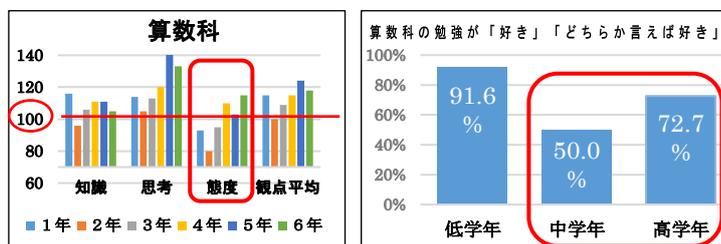
## ○ 子供の実態から

### 《複式学級における学習指導》

	複式学級における学習で困ること
低学年	△ めあてを考慮するのが大変。 △ 何をすればよいか分からない。
中学年	△ みんなが分からなくなったとき。 △ 意見をまとめるのが難しい。
高学年	△ 共通点を見付けるのが難しい △ いろいろな意見が出て，どれをまとめればよいか分からない。

【複式学級における学習に関する意識調査】

### 《教科指導》



【CRT 令和 2 年度の領域別の結果】

【算数科に関する意識調査】

### 《複式学級における学習指導の課題》

- ・ ガイド学習では，ガイド力，フォロワー力に個人差があり，キーマンがいないと学習が進まないことがある。
- ・ 学習につまずいたときに主体的に取り組めていない。

### 《教科指導の課題》

- ・ 教科等を学ぶ大切さは理解しているが，学習意欲が低い。
- ・ 主体的に学習に取り組む態度が十分でない。

主体的に学習に取り組むことができていない

### 《原因》

- ・ 教師やガイド役に頼りすぎて，子供が主体的に取り組みにくい複式学級における学習指導になりがち。
- ・ 教科等を学ぶ目的や必要感，学びのよさが見いだせていない。

教科等を学ぶ価値が実感できる複式学級における学習指導

- 複式学級のよさを生かした学習指導
- 「学びに向かう力」を涵養するための指導

## Ⅱ このように研究を進めてきました

### ○ 研究主題について

「自ら学び自ら考える」とは

子供一人一人が学びに向き合い、主体的に学習に取り組むこと

「教科等を学ぶ価値を実感する」とは

教科等を学習する目的や必要感を捉え、学びのよさを実感すること

教科等を学ぶ価値

目的：めあて

必要感：動機，興味・関心 など

学びのよさ：達成感，成就感，成功感 など

### ○ 複式学級のよさを生かした学習指導

昨年度の実践の成果を踏まえ、複式学級のよさを生かした学習指導については、さらに充実させて継続して取り組んでいます。

- |   |                                |
|---|--------------------------------|
| あ | 子供の主体的な学習を促す指導                 |
| い | 同学年の子供同士が協力したり，学び合ったりする学習を促す指導 |
| う | 異学年の子供同士が協力したり，学び合ったりする学習を促す指導 |
| え | 教師が積極的に個別対応をする指導               |

【複式学級のよさを生かした指導】

本校が取り組んでいる「ずらし」なしのガイド学習をより充実させるために、両学年の学習単元や領域をそろえる単元配列にしたり、単元計画の中で学習内容をそろえたりして授業を行っています。

上学年	課題把握	→	課題追求	→	解決・定着	→	通用・発展
教師の働き (わたり)	↑ ↓ 両学年への対応						
下学年	課題把握	→	課題追求	→	解決・定着	→	通用・発展

【「ずらし」なしの学習過程】

【5】年				【6】年				
月	単元名・教材名	時数	月	単元名・教材名	時数	月	単元名・教材名	時数
4	17	1 小数と整数	4	4	17	1	ならべ方と組み合わせ方	7
		2 合同な図形				2	文字と式	8
		3 比例				3	分数と整数のかけ算とわり算	7
		4 平均				7	5 14	
		6 小数のかけ算				4	分数×分数	10
		5 単位量あたりの大きさ(1)				6	5 分数÷分数	8
		ふりかえろう つなげよう				1	6 小数と分数の計算	5
							ふりかえろう つなげよう	1

【単元構成をそろえた単元配列の例】



### ○ 「学びに向かう力」を涵養するための四つの視点に目を向けた指導

「学びに向かう力」を涵養するために、次の四つの視点に沿って研究を進めてきました。

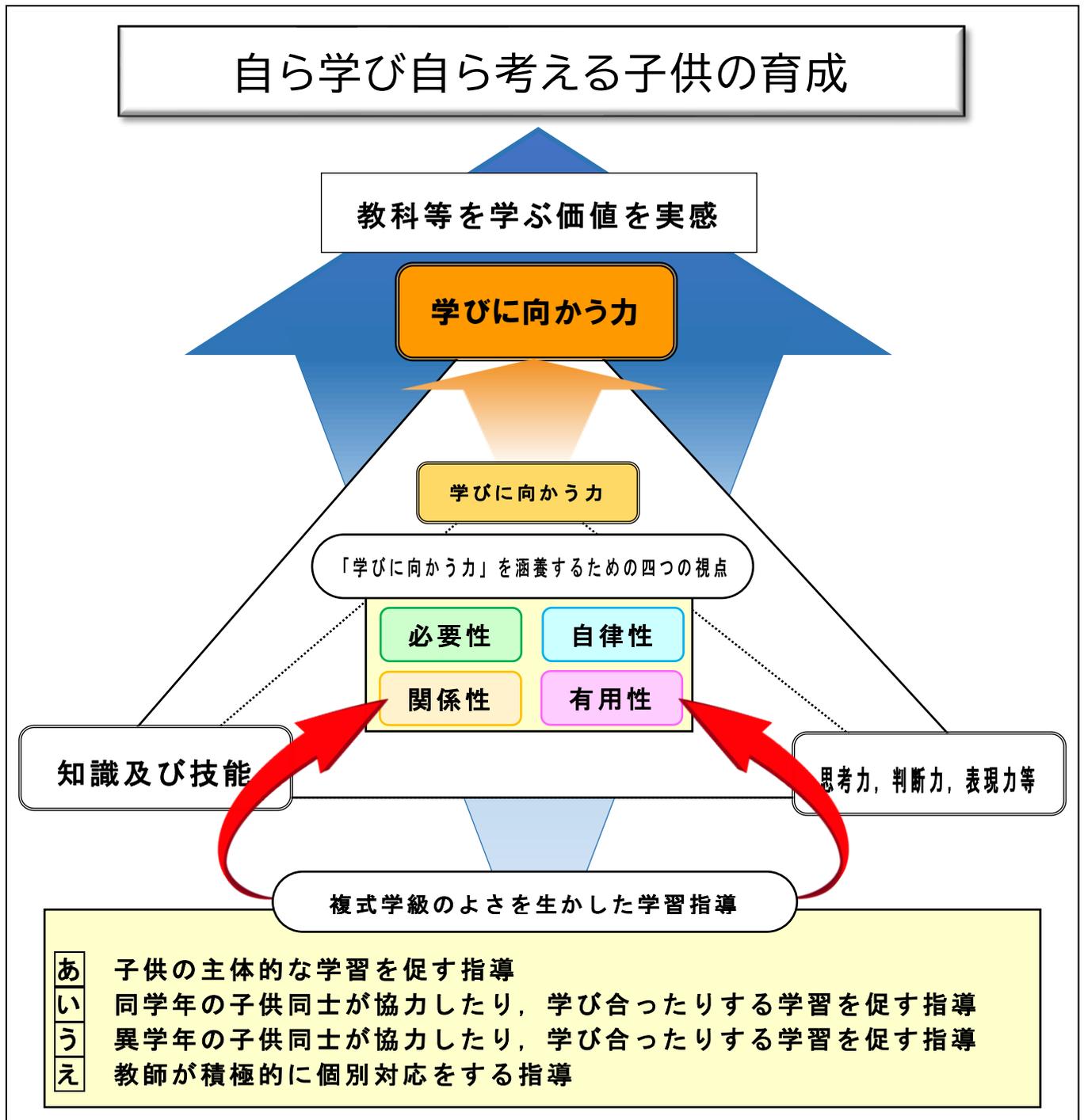
視点	各視点の基本的な考え	子供の姿(例)
必要性	学習に動機を与え，必然をもたせる視点	「～ためにしている。」 「～する必要がある。」
自律性	学習内容・方法を自分の意志で決められる視点	「自分で～している。」
関係性	知識及び技能同士を結び付け，自分の考えを広げたり深めたりする視点	「～が参考になる。」 ・「やっぱり～だ(強固)。」 ・「～もいいな(付加)。」 ・「～の方がいいな(修正)。」
有用性	学習に意味を見だし，自分の資質・能力に自信がもてる視点	「なるほど～なのか。」 「～できた。」

【「学びに向かう力」を涵養するための四つの視点】(令和2年度 鹿児島県総合教育センター 調査研究発表会より)



## Ⅱ このように研究を進めてきました

### 研究の構想図



これまで取り組んできた複式学級のよさを生かした学習指導を「学びに向かう力」を涵養するための四つの視点のそれぞれの中に位置付けて「自ら学び自ら考える子供の育成」を目指しています。



## 必要性

### 学習に動機を与え、必然をもたせる手立て

「うまくいかない」、「なぜだろう」というこれまでの生活経験や既習の学習内容では解決できないような課題設定を行ったり、複式学級の特性を生かして、両学年共通の課題設定を行ったりして、「挑戦したい」、「解決する必要がある」などの学習に対する必要感や意欲をもたせるようにしました。

### ～実践例～

- あ 日常生活と関連させたり、知的好奇心を満たしたりする課題設定
- い Which型による課題提示
- う 異学年共通の課題設定など



### あ 子供の主体的な学習を促す指導の例

これまでの展開	より必要性を意識した展開
<p><b>【3年】：わり算のたしかめ</b></p> <p>3 26このあめを8こずつふくりに入ると、何ふくろできて、何こあまりですか。</p> <p>式 <math>26 \div 8 = 3</math>あまり2</p> <p>↓ たしかめ</p> <p><math>8 \times 3 + 2 = 26</math></p>	<p>既習事項から違いを明確に捉えさせることで知的な好奇心を満たすような場面を設定してみました。</p> <p>既習 <math>24 \div 8 = 3</math> (たしかめられる)</p> <p>未習 <math>26 \div 8 = 3</math>あまり2 (あれ？たしかめにくい)</p> <p>本当かたしかめたい</p> <p>未習内容に挑戦する</p>



## 関係性

### 知識及び技能同士を結び付け、自分の考えを広げたり深めたりする手立て

ホワイトボードやタブレット端末を活用して可視化されたそれぞれの考えから、働かせた教科等の見方・考え方を中心に共通点や関連性を生かせるような話し合いを展開するようにしました。

### ～実践例～

- い 考えの可視化・類型化による話し合いの焦点化
- う 異学年の考えを参考にしたり、交流したりする場の設定
- え 柔軟に支援に入る個別対応など



### い 同学年の子供同士が協力したり、学び合ったりする学習を促す指導の例

より関係性を意識した展開

数、式、図、表、グラフなどを活用して数学的に表現したそれぞれの考えを「見方・考え方」で類型化して、可視化することで、共通点や関連性を捉えられるようにしました。

みんなの考えが見られて比べやすい

【タブレットによる類型化】

方法は違うけど共通点があるよ

【ホワイトボードによる類型化】

友達の考えから共通点や関連性を導き出す



### Ⅲ このような実践をしました

「学びに向かう力」を涵養するための四つの視点に目を向けた指導を、複式学級での算数科における1単位時間の学習過程に沿って次のように捉えるようにしました。

過程		主な学習活動	四つの視点と目指す子供像
目標の明確化	つかむ	1 前時の復習をする。 2 学習問題を捉える。 3 めあてを立てる。	<div style="border: 1px solid green; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block; margin-bottom: 10px;"> <b>必要性</b> </div> <p>既習事項とのつながりから本時のねらいを明確に捉え、問題解決の必要感や意欲をもつことができる。 「前の学習と〇〇が違うぞ」 「この問題も解決してみたい」</p> 
	見通す	4 見通しをもつ。	
山場の工夫	調べる	5 自力解決を図る。	<div style="border: 1px solid orange; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block; margin-bottom: 10px;"> <b>関係性</b> </div> <p>考えを広げたり深めたりするために、他者の考えと自分の考えを比較することができる。 「〇〇さんの理由を聞いて納得した」 「～という共通点がまともに使える」</p> 
	練り上げる	6 考えを交流する。	
確かめ・見届け	まとめる	7 まとめをする。	<div style="border: 1px solid pink; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block; margin-bottom: 10px;"> <b>有用性</b> </div> <p>働かせた教科等の見方・考え方を意識して、自己の変容をその要因まで捉え、学ぶことのよさを実感することができる。 「始めは～と思ったけど、友達の考えを使うとさらに簡単に解決できた」 「次は～の問題にも挑戦してみたい」</p> 
	振り返る	8 練習問題をやる。	
		9 振り返りをする。	



学習過程に沿って授業を考える際、「必要性」、「自律性」、「関係性」、「有用性」の視点の順に手立てを考えることが多いです。

しかし、場合によっては、必ずしも1単位時間内に全ての視点があると言えなかったり、視点の順番が入れ替わったり、同じ視点による場面が複数回あったりすることもあります。

学習内容や子供の実態に応じて、各視点を踏まえた手立てを講じることが大切です。

# このような実践をしました

## 自律性

### 学習内容・方法を自分の意志で決められる手立て

関連する既習事項をいつでも確認できるように教室掲示やICT環境を整備したり、具体物を操作できるヒントコーナーなどを設けたりすることで、自ら学び自ら考える学習を促すようにしました。



### ～実践例～

- あ 既習事項を想起させたり、関連付けたりする場の設定
- あ 1人1台のタブレット端末の効果的な活用
- い 自己選択・自己決定する場の設定 など

い 同学年の子供同士が協力したり、学び合ったりする学習を促す指導の例

### より自律性を意識した展開

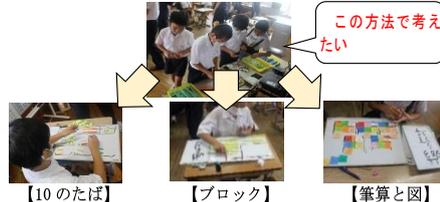
【4年】：1けたでわるわり算

83まいの色紙を5人で同じ数ずつ分けます。1人分は何まいになって、何まいあまりますか。

式  $83 \div 5$

答え 1人分は□まいで、□まいあまる

自己選択・決定できる場を設定することで主体的に問題解決に取り組めるようにしました。



この方法で考えたい

自分で解決方法を選択する



## 有用性

### 学習に意味を見出し、自分の資質・能力に自信がもてる手立て

「学習のまとめ方」をパターン化したり、自己の変容を捉えた振り返りをさせたりしました。また、両学年ともに、領域や単元をそろえて学習することで、互いに学びの振り返りを交流することができ、学習内容の系統性をより捉えられるようにしました。



### ～実践例～

- あ 達成感・成就感を意識した適用問題設定
- い 見方・考え方を意識して自己の変容を捉える振り返り
- う 両学年の学びを交流できる場の設定 など

う 異学年の子供同士が協力したり、学び合ったりする学習を促す指導の例

### より有用性を意識した展開

異学年交流の場では、それぞれの学習の振り返りを両学年で交流することで、上の学年は前学年の内容と関連付けたり、下の学年は今後の学習の見通しをもてたりするなど、学習内容や見方・考え方の系統性を捉えさせるようにしました。



学年が違っても同じ考え方だね

6年生の「分数」では数直線と面積の図がひとつになっているよ。やってみよう。

【5年生：小数のわり算】

「整数に直す」という点は5年生の「小数」の学習と同じ考え方だね。

【6年生：分数のわり算】

両学年の学習の系統性を捉える

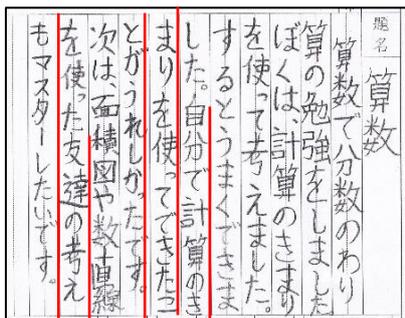


## IV このようなことが分かってきました

### ○ 研究の視点から

視点	成果	改善策
必要性	○ 学習に動機を与えることで、より目的や必要感をもって学習に臨むようになってきた。	・ 単元を通じた学習に対する必要感や単位時間における学習に対する必要感など、更に充実を図っていきたい。
自律性	○ 自己選択・自己決定するための学習環境を整えることで、子供がより主体的に学びに向かうことできてきた。	・ 複式学級の特性に合わせ、アナログとデジタル双方のよさを生かしながら、学習機器等を活用していきたい。
関係性	○ 自分たちの考えを可視化し、類型化することで、考えを広げたり深めたりできるようになってきた。	・ 子供の学びの実態に応じて、主体的な学びを促す個別支援を行ってきたい。
有用性	○ 自己の変容や要因を意識した振り返りから、学びの成果や考えの変容を肯定的に捉えるようになってきた。	・ 学習内容（活動）の精選と併せて、目的に合った適用問題等を検討していきたい。

### ○ 子供の姿から



左は、6年生の子供の日記です。学ぶ価値を実感できた子供は、その学びから新たな問いを見だし、次の学習にも目的や必要感をもって、より主体的な学びを連続させていくものと考えます。このような経験を多く積ませていきたいものです。



「涵養」…学ぶ価値が実感できる学習指導を継続的に繰り返し行うことで、正に水がしみこむように子供たちの内面に「学びに向かう力」を育てていきたいと思えます。

#### 【引用・参考文献】

- 「小学校学習指導要領解説 算数編」 (文部科学省 平成 29 年)
- 「令和元年度 調査研究発表会資料」 (鹿児島県総合教育センター 令和元年)
- 「令和2年度 調査研究発表会資料」 (鹿児島県総合教育センター 令和2年)
- 「改訂 大島の教育 Pamphlet 1～5」 (大島教育事務所 令和2年)
- 「自ら学び自ら考える複式学習指導講座」 (鹿児島県総合教育センター 令和3年)

#### ◆ 研究同人

校長 岩戸 修二  
 教頭 吉田 真也  
 教諭 徳永 理恵  
 玉泉 真和  
 新保 恵  
 田代 真美  
 上村 修

養護教諭 福田 和代  
 事務職員 秋丸 幸賜  
 一般事務補助 原田 茂子  
 特別支援教育支援員 山下 美紀

#### ◆ 旧研究同人

赤石 裕樹  
 恒松 友和  
 元田 禮子  
 手島 絵里香  
 盛 奈津子